消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	津波により浸水した堤防を日没時に資器材を持って移動した事例
3. 体験した事例の中心的要素	日没時、足場が悪い中、約30キログラムの油圧救助資器材を搬送し、転落、転倒すれば溺水のおそれがあった。
4. 体験した事例の原因・理由	津波により浸水した堤防上の車両の中に要救助者1名が取り残されているとの情報を得て救助に向かったが、日没間近であったため退出時はヘッドライトの明かりのみを頼りに移動せざるおえなかった。堤防と法面の境が定かではなかったことと、津波に流されてきた車両や家屋が堤防上にあり足場が悪い中の油圧救助器具を携行しての移動となった。転落、転倒、溺水のおそれがあった。

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成23年3月13日　午後5時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：津波により浸水した堤防上
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	死亡していた（させていた）だろう
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	墜落・転落、転倒、おぼれ
7. 事例体験時の活動	風水害等の災害撤収、救助撤収、捜索撤収
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	進入・退出
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

１０．ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者Ａ）

○当事者A	年齢[34]歳、勤続年数[12]年、現場経験年数[3] 年、階級[消防士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [機関員]
○当事者B	年齢[30]歳、勤続年数[8]年、現場経験年数[1] 年、階級[消防士長] 同様の活動 [ ]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[26]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[1] 年、階級[消防士] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○その他（当事者が4人以上の場合）	

11．事例発生の経過。

	誰が（何が）	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	油圧救助資器材を搬送しながら安全管理	
経過2	当事者B	油圧救助資器材を搬送	
経過3	当事者C	油圧救助資器材を搬送	
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合 ：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できた。 集中力、注意力があった。 他隊(員)との連携活動がうまくいった。 たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

〇装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

〇活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	はい

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	はい

〇指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	はい
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	はい

〇その他

l. その他の理由があった。

携帯無線機、トランシーバーを携行していなかったため、隊長及び前進指揮所との連絡手段がなかった。

【事故発生後の取り組みについて】 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

〇注意力欠如、焦り等の対策について

〇装備・資機材の対策について

〇活動環境の対策について

〇指揮・情報伝達の対策について

1　概要

役場職員からの救助要請。前進拠点から亘理大橋の間で自動車内に人が閉じ込められている。

2　現場の状況

検索場所は堤防のようになっており、道路周囲は冠水していた。乗用車、家等がある場所が歩行可能。それ以外の場所は道路と水の区別がつかない状況であった。

道路上には付近のモータープールから流れてきた車両が多数折り重なっていた。

3　活動状況

救助隊５名と被災消防本部職員１名で検索救助を開始したが日没が近づいたため救助隊長他１名と被災消防本部職員１名で検索救助を継続。他の救助隊員３名で油圧救助器具等（スプレッダー、カッター、エンジンユニット、油圧ホース、台車）の撤収を実施した。日没間近で視界、足場が悪い中での活動となった。